

令和6年度

穴吹中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 教えから学びへ重点を置く・気づき考え育つ授業改革
- ・一人一人が輝く授業～すべては授業の中にある～
- ・いつでもだれでもどこでもオープン授業の学び合い

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
教諭 湯浅 祐貴	校長 横畠亜希子 教務 宇山 壮史 教頭 垂水 恵子 教諭 黒長 史恵

校長
横畠 亜希子

【各校の取組状況の把握について】

全職員による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○意欲的に取り組むことができ、タブレット等を使いながら、自主的に調べ、知識・技能を習得している。 ●定着の個人差が大きい ●調べ学習がネットだけの情報になってしまい、本を読むことや友達と共有することが減ってきている。	・セルフタイムマネジメントを含め、自ら工夫して家庭学習に取り組むことができる ・自分に合った学習方法を身につけることができる。	・授業内容・活動の取捨選択。 ・タブレットを活用した効果的な家庭学習の工夫。 ・朝の自主学習で国語・英語・数学の基礎基本の力を育成。スタディサブリの有効活用。 ・効果的なICTの利活用。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○ファシリテーションの技術が身につく、話し合いを深めることができる。 ○授業ごとにめあての確認と、振り返りをする習慣が身についている。 ●新しい考えを創造するなどについて、個人差が大きい。 ●自分一人で考えることが苦手で、すぐに人に聞いてしまい深く考えないことがあった。	・ファシリテーションの技術をさらに磨き、自分で考えをまとめたり書いたりすることができる。（R80も含む） ・目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、話したり書いたりすることができる。	・一人で考える時間、みんなで考える時間などの思考の時間の工夫。 ・授業のめあて、授業の流れの提示。 ・アウトプットを重視した授業づくり。 ・ICTを効果的に利活用することで、生徒が主体的に活動する時間を確保する。 ・国語力タスクフォースの推進。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○ICTの活用等により授業や家庭学習に意欲的に取り組める生徒が増えている。 ●家庭学習の定着・セルフタイムマネジメントができていない生徒がいる。	・自らの目標を明確にして計画を立てて取り組むことができる。	・自ら課題を設定する家庭学習。 ・内容ではなく、学び方を身につけさせる方策をたてる。 ・目標を明確にして計画を立てていることを習慣化。セルフマネジメント力の育成。 ・個別最適な学びと協働的な学びの推進。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

